

意見書第1号

南土山地先の安定型産業廃棄物最終処分場建設計画について
 厳格な審査と情報公開の徹底を求める意見書

滋賀県甲賀市土山町南土山地先において、民間企業による面積約26.0ha、埋め立て容量約215万m³の県内最大規模の安定型産業廃棄物最終処分場の建設が計画されている。

本計画の埋め立て廃棄物の種類は、廃プラスチック類・ガラス陶器くず・がれき類（コンクリートの破片その他これに類する不要物）で、石綿含有産業廃棄物も含まれるとされている。

建設予定地は野洲川の支流田村川その支流次郎九郎川流域に位置し、その浸透水は野洲川を経て琵琶湖へ流入する。該当処分場が建設された場合、その影響は現地にとどまらず、飲料水や農業用水として野洲川・琵琶湖の水を利用する湖南市を含む下流域の住民にとっても重大な懸念事項である。

野洲川水系及び琵琶湖等の安全で安心な水環境を将来にわたり守るため、本件産業廃棄物最終処分場計画の審査にあたっては、慎重で厳格な審査と情報公開の対応を求めます。

以上地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

提出先：滋賀県知事

【全会一致で可決】

請願第1号

東庁舎 西庁舎を耐震補強と、リノベーションで長寿命化を図る請願書

東庁舎建て替え計画は、谷畑市政78億円、生田市政、ライフサイクルコスト、102億円、松浦市政は125億円の建て替え事業費を示されてきました。

行政は建て替えが先にあって、これまで市民の声を無視し、選挙や住民投票で市民に問うことをしないで、建て替えに誘導する取り組みを進め、また「建て替えは決まったもの」と、市民に説明をしてきました。ところが、昨年12月市議会では、東庁舎建て替えの「庁舎整備基本計画」は、「議会の決定、議決そのものは頂いてございません」と答弁し、東庁舎建て替えの議決していないことが明らかになり、これまでの「建て替えは決定した」の行政説明は、事実と違う説明であった事が明らかになりました。

又、建て替えへ誘導する不公平な資料提出について、「21億円の耐震補強の資料をお示しできなかった事は、申し訳ございません」と答弁、耐震補強の資料を出せなかった事も認めました。

令和8年度予算編成方針では、「庁舎周辺整備事業」を最重点事業と位置づけるとして、「多額の投資的経費が必要となり、・・・社会保障費の増加を抑制するための施策を確立していくことが大きな課題」としています。

「小学校給食の無償化や、コミュニティーバスの充実、補聴器購入補助などに税金を使ってほしい」「暮らしが大変な時税金の無駄遣いしないで、暮らしを応援してほしい」など市民の願いや要望は、後回しにされるのではないかなど心配の声が上がっています。

東庁舎建て替えを急ぎ、中央消防署移転事業は、近隣住民に説明もしないで、ボウリング工事等進め、中央消防署の移転事業が進められなくなり、大きな損失を生む結果をつくり出しました。市民の声も聞かず、工事を進めてきたところに問題があります。行政が市民の声を真摯に受け留め反省することが求められています。「使える庁舎をつぶすのはもったいない。なぜ、建て替えか」、「21億円で出来る耐震補強、リノベーションの取り組みをなぜしないのか」東庁舎の建て替え計画をやめて、東西庁舎は潰さず耐震補強で長寿命化を図り、東西庁舎の行政機能を充実されることを願っています。

請願事項

- 1 東庁舎・西庁舎の耐震補強と、リノベーションで長寿命化を諮ることを求めます。
- 2 行政機能の一極集中計画を改め、各地域の窓口業務等行政機能の充実を求めます。

【賛成少数で不採択】